
kzniiski

列車砲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

kznisk i

【Nコード】

N4183BA

【作者名】

列車砲

【あらすじ】

遠い親戚から転がり込んできた館の地下室にあった鏡に触れると、そこは奇妙な世界だった。剣と魔法系の異世界行き来ものです。基本主人公はチートします。

1 序章

「え〜〜と」

ここ…ドコでしょう？

待て待て待て、まずは状況整理です。えーとうん、確か私、あったことないような遠い親戚の遺産とやらでもらった馬鹿でかい洋館を見に来たんですよね。そのなんか変な封印っぽいものされてた地下室にあっただでかい鏡に触ったら視界がぐについて感じになって…
「ここにいますよね？」

ここは、少なくとも見た感じは森だ。なんか見かけない、外国っぽい針葉樹がいっぱい生えている。そして、後ろには朽ちかけた廃墟が。

見た感じだと、ドアっぽいものはない。ただの石壁だ。

「でも確かにこっちのほうから…」
壁に触れると、
ぐに。

視界がゆがむと、

「あ」

あの鏡の地下室にいた。後ろにはあの鏡がある。

「…戻ってきたんですかね？」

もっかいちょっと鏡に触れてみる。
ぐに。

また森だ。さっきと寸分たがわぬ風景。

石壁に触れて、ぐに。鏡に触れて、ぐに。

何回かやっていると、なんか少し酔ってきたので、やめにする。

「…どこ行きましょうか」

後ろ以外は、どこ見てもうっそうと森が茂っている。

「とりあえず…こっちに進もう」

石壁と反対方向に向けて、コンパスを見ながら、慎重に歩き始めた。

1 序章（後書き）

処女作ですのでいろいろと至らないところがあると思います。できるだけちゃんとしていきたいですが、連載停滞、放棄などあるかもしれない。そのときはすみません。ぜひとも生暖かい目で見てください。

2 接触

「うーん」

時々木に使い捨てのビーコンをくつつけながら、歩くことすでに15分。まだ人の気配すらしない。

ひたすら、代わり映えのしない森が続くだけだ。少し歩けば、川か道に出るかと思っていたのだが、甘かったようだ。

少なくとも日本本土には、特級自然保護地区でもない限り、このような森が続くことはない。

どんな深い森に見えてもいざはいってみると、さりげなく、しかし緻密な計算の上に作られた道に出るからだ。

そして、特級自然保護地区には、上空に常に無人機が飛んでいて、内部への無断侵入者を発見次第、警告を行うと共に、管理所に通報を行うはずだ。

もしそうなら、今頃はすでに管理所で注意を受けているはずだ。

しかし、ここにはじめて入ったときからすでに20分ほど経過しているが、いまだにその気配も感じられない。

と、なると…もしや外国？

ここの木々は、どちらかというと、欧州に近いものに見える。

持ってきたGPSなどをいじくってみるが、コンパスは働くのに、肝心のGPSは『エラー 衛星を認識できません』という表示を出しっぱなしだ。

このGPSは、軍用で森くらいじゃこんなことになるはずがない。携帯端末も『圏外』表示だ。

「こんなことならAIを入れてくるんだった…」

といってもすでに遅い。

「よし、後5分だけ進んだら引き返そう」

それから一分くらいたったときに、前方にヘンなものが見えるのに気づいた。

「あれ、なんでしょう？」

木の間に見えるものは、布みたいな塊。
と、いうか服とそれ着てる人間。
地面に伸びたまま、動かない。

「えっと…」

右のほうを見る 誰もいない。
左のほうを見る 誰もいない。

前を見る 倒れてる人。

「えーと(ぽりぽり)」

「やばい！」

とりあえず、前方に全力疾走。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4183ba/>

kzniiski

2012年1月12日18時53分発行